

# 高い耐久性・強度で環境配慮の基礎工事实現

## プロジェクト最前線

東京五輪が開催される2020年に創業115周年を迎える梶川建設。サイレントパイラー工法・鋼矢板圧入工法の最先端企業であり、16年までに相次いで完了した高知海岸の堤防改良工事にもサイレントパイラー工法の「総本山」である技研製作所（高知市）とともに参画。護岸工事などの分野では技術力は高く評価されている。折しも近年、地震災害の被害をいかに抑えるかが大きなテーマになっている。特に東日本大震災による津波被害は記憶に新しく、梶川建設が本拠地を構えてきた愛知県碧南市では東海地震や東南海地震などへの備えも叫ばれている。堤防改良などに対する経験やノウハウが豊富な同社への期待は大きい。

「建設業は企業数も多く、生き残るためにさまざまな施策を打ち出してきました。高度な技術を持つのもその一環。今後もこうしたサイレントパイラーや鋼矢板圧入などの「得意技」を核に、業容の拡大を目指します」

かくいう代表取締役の梶川光宏氏が先代からのバトンを受けたのは09年のことだった。

### 造船所として創業

2000年代に登場した小泉政権は公共事業を大幅に縮減。建設業は厳しい経営環境下に置かれ、そこにリーマン・ショックが追い打ちをかけていた。

「当時、経営は厳しかった。有利子負債もあり、外部の方々力も借りながら、経営を好転させる努力を続けました」（梶川光宏氏）

## 梶川建設「サイレントパイラー工法」



東京都心の施工現場を視察する梶川光宏氏

実際、同社にはこれまでも幾多の苦難を乗り越えてきた経験がある。社名から建設業をイメージするが、創業当初は造船所だったという。戦後の1952年から建設業にも進出。59年4月に現社名である梶川建設となった。その数カ月後、同社が本社を構える碧南市を「伊勢湾台風」が襲う。

明治維新以降では最大の被害を出した台風の直撃。地元である碧南は壊滅的な状況に陥った。造船業と建設業を併設する梶川建設は、自社が有する船も動員し、護岸や港湾の修復に奔走。懸命の復旧作業にあたった。

そんな経緯もあり、護岸工事などに

多くの経験とノウハウを蓄積するとともに、それらを発展させてきた。建設業に専念後も次第に規模は拡大。しかし、バブル崩壊後は風向きが変わった。橋梁や道路工事は次第に減少。公共事業に頼った事業展開は立ち行かなくなっていく。

難局の中で代表取締役に就任した梶川光宏氏は「きちんとした経営計画をつくらなくてはいけない」と思い立つ。

とともに、2005年から着手していたサイレントパイラー工法や鋼矢板圧入工法に目を付けた。

技研製作所が開発したサイレントパ

イラー工法などの技術は、高い耐久性や強度を持つ基礎工事を実現しつつも環境負荷が少ないなど、優れた特徴を有していた。

それらの技術の一つ一つ体得することで、次代のニーズをつかむ戦略を進めていく。

「いまでは経営数字が月次で分かるまでになった。データに基づく経営計画も立案できるようになった。技術力が評価され、サイレントパイラー工法・鋼矢板圧入工法では全国から声もかかるようになった。そしてこの陰には、厳しかったときも辞めずに残ってくれたやる気のある社員の貢献があった」（同）

### 技術のさらなる可能性

同社はいま、独立しているパイラー事業部と建設部門を統合し、全国区での事業展開をより強化する戦略を検討している。というのも、パイラー工法が活躍する基礎工事の部分と、主にうわものを手掛ける建設部門の両方を有している企業は珍しく、基礎工事からその周辺までの一括受注を目指すなどの業容拡大が可能とみられるからだ。

事業の幅を広げることで「メーカーと、あるいは、元請けのゼネコンなどとも協力しながら、より良いサービスを提供していく」（同）。と同時に、パイラー技術のさらなる可能性についても思うところがある。

「安全性や耐久性などが検証できるなら、これらの技術を使ってより付加価値を生み出していきたい。もっといろいろなものに活用できるのではないか」（同）ともいう。

2020年には56年ぶりの五輪が東京で開催される。その傍らで、前回の五輪に合わせて整備された多大なインフラ群は老朽化が進んでいる。費用を抑えながら補強工事を進めるといったニーズは増えている。梶川建設が持つ技術の用途、可能性は今後ますます広がろうだ。

## 焦点

### 「仕事を楽しく」業界イメージ払拭へ

先進技術を軸に受注拡大を進める梶川建設では、もう一つのプロジェクトが始動している。社員が主体になっての新たなユニホームづくりだ。「3K（きつい、汚い、危険）」という建設業界のイメージを払拭し、仕事を楽しくする」という梶川光宏社長の発案で始まったもので、入社数年目の若い女性社員が幹事役を担う。

テーマは「kawaii（かわい



い）。これは、「kawaiiにチャレンジ！」という形で同社のスローガンにもなっている。同社は、東京・原宿エリアで開催される国内最大級のインバウンドイベント「もしもしっぽんフェスティバル」にも日本の「kawaii文化」を世界に広めようという思いで協賛。東京・台場でフジテレビジョンが開催している国内最大級のハロウィーンイベントにも同様の狙いから参加してきた。

本社のある愛知県碧南市には童話の世界から抜け出してきたような建築物「風の井戸」も建設した。この施設は、地中熱によるエコシステムを備えた先進的な一面もある。同社が目指す建設の一つ

新たなユニホームづくり幹事役を担う女性社員。手にするのは「kawaii」をテーマにした会社案内だ

の形でもあるのだ。

また、インターネットを活用した名作映画の吹き替え事業にも着手している。これは、過去の名作映画に新たな価値観を加えて現代に蘇らせるとともに後世に伝え残そう、という企画。来年3月までに10作品の販売を始める考えだ。

社員が楽しく働ける職場を作るとともに、社会の安心・安全を守り、地域に貢献していく。それに向けた取り組みがいよいよ本格化する。

#### ■梶川建設

【本社】愛知県碧南市天神町2-8

【創業】1905年4月（梶川造船所）

【従業員数】約100人

【資本金】2000万円

【売上高】29億700万円（2018年6月期）

【事業内容】サイレントパイラー工法や鋼矢板圧入工法による基礎工事、住宅や商業ビル、公共施設の建設など

小  
教

中国でのサマー修学旅行などが急つては公の、保投資を拡業にとっになって

留学の

サマーに普及し降、「中登場し、の黒海で府が出資の優秀な合いのも

現在はでも海外キャンパデータに活動への投入金額(億円)超オンライン(シート)によると学ツアア上り、既

成  
都

電子情

四川省産業開発アでこのクトが一額は約16海外の最込み、都とも調和態圏を構同エリ料が重要起工式に興産が有として同企業、出限公司是1500万円を建設す

協  
鑫

太陽光

協鑫集陽電池パ成科技股システム・テクノロジーに本格参ネルの価略転換を協鑫集電子産業